

健康にアイデアを

meiji

Integrated Report 2023

統合報告書



明治ホールディングス株式会社

明治グループの目指す姿・健康価値

グループ理念

私たちの使命は、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、
「健康・安心」への期待に応えてゆくこと。

私たちの願いは、「お客さまの気持ち」に寄り添い、
日々の「生活充実」に貢献すること。

私たち明治グループは、「食と健康」のプロフェッショナルとして、
常に一歩先を行く価値を創り続けます。

meijiらしい健康価値とは？

私たちが目指しているのはCURE（なおす）・CARE（まもる）・SHARE（わかちあう）によって、すべてのステークホルダーに「meijiらしい健康価値」をお届けすることです。CURE・CAREとは、赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代の方々に向けて、こころとからだに良い変化を起こすスイッチをたくさん入れること。そして、一人一人により多く、より長くサポートしていくことで、健やかで幸せな笑顔にすること。SHAREとは、その笑顔を周りにいらっしゃる大切な人たちにまで、広く伝播させていくこと。こうして、一人の健康をみんなの笑顔につなげていくことが、私たちが考える「meijiらしい健康価値」です。

meijiらしい健康価値を すべてのステークホルダーに提供していきます

従業員の健康

- 一人一人の力が発揮できる職場環境
- 心身ともに安心して働くことのできる職場環境

社会の健康

- 豊かな社会づくり（地域社会とのパートナーシップ、社会貢献活動）
- 持続可能な調達活動
- 取引先との相互信頼関係の構築

株主・投資家

- 持続的な成長
- 健全な財務基盤、資本の効率化、安定した利益還元

人・社会・地球のすべてが健康である 「より良い未来」を実現

こころとからだの健康

豊かな社会

自然との共生

お客さまの こころとからだの健康

- 健康寿命の延伸
- 健康で豊かな生活
- おいしさ・楽しさ
- 製品における安全・安心

地球環境の健康

- 環境との調和（環境保全、環境負荷の低減、生物多様性の保全）
- 持続可能な調達活動

編集方針

明治ホールディングス(株)は、2018年よりアニュアルレポートを「統合報告書」に代えて編集・発行しています。創業100年を超え、明治グループは新たな成長ステージに挑んでいます。本報告書では、持続的な成長のための「価値創造ストーリー」を軸に、財務・非財務情報などを一体的に編集してお伝えいたします。

参考ガイドライン:

- IFRS財団 統合報告フレームワーク
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)
- 経済産業省 価値協創ガイダンス



「統合報告書 2023」のご利用にあたって

- 本報告書は、2022年度(2023年3月期)の実績に基づいています。一部、2023年度(2024年3月期)以降の活動内容も含まれます。
- 記載している内容は、当社が「統合報告書 2023」作成時点で入手可能な情報から編集したものです。従って、実際の結果が当社の見通しと異なる可能性があることをご承知ください。なお記載情報は、特に示しているものを除き、2023年8月現在のものです。
- 2021年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しています。特に記載のない限り、2020年度までは当該基準の適用前、2021年度以降は適用後の情報です。

明治グループの情報開示

統合報告書には、当社およびステークホルダーの方々にとって特に重要度の高い情報を掲載しています。独立監査人の監査報告書等が付された財務諸表等は有価証券報告書をご覧ください。そのほか、明治グループに関するより詳細な情報を入手されたい場合は、当社の各種ウェブサイト併せてご活用ください。



統合報告書



持続的な企業価値の向上を目指す明治グループのさまざまな取り組みについて、ストーリー性をもって記載し、理解を深めていただけるように構成しています。

統合報告書 ▶

ウェブサイト



会社概要、財務情報、コーポレート・ガバナンス、サステナビリティ関連情報、最新のニュースなど、各項目の詳細が網羅的にご理解いただけるように構成しています。

株主・投資家情報

<https://www.meiji.com/investor/>



- ビジョンと戦略 ▶
- IRライブラリ ▶
 - 有価証券報告書 (PDF) ▶
- 個人投資家の皆さまへ ▶
- コーポレート・ガバナンス ▶
- 財務・非財務ハイライト ▶
- 株式情報 ▶

サステナビリティ情報

<https://www.meiji.com/sustainability/>



- 健康と安全 ▶
- 環境 ▶
 - 明治グループにおけるTCFDへの取り組み (PDF) ▶
- 人財・人権・社会 ▶
- 原材料調達 ▶
- 外部イニシアチブとの連携 ▶
- 外部評価 ▶
- サステナビリティ情報索引 ▶

明治グループについて

ネクストストーリーズ

「meijiらしい健康価値」を追求する取り組みをストーリーでご紹介しています。

<https://www.meiji.com/stories/>

イノベーション

新たな健康価値創造の取り組みをご紹介します。

<https://www.meiji.com/innovation/>

明治グループの概要

理念やスローガン、経営体制、事業領域、沿革などをご紹介します。

<https://www.meiji.com/corporate/>

その他の詳細情報は下記 URL からご覧ください。

明治ホールディングス株式会社

<https://www.meiji.com/>

目次

明治グループについて

- 01 明治グループの目指す姿・健康価値
- 02 編集方針 / 明治グループの情報開示
- 03 目次
- 04 2026ビジョン実現へのプロセス
- 06 At a Glance
- 08 100年にわたる「meijiらしい健康価値」創造の歴史

トップメッセージ

- 12 CEOメッセージ
- 18 CFOメッセージ
- 20 2023中期経営計画の概要と明治 ROESG

価値創造プロセス

- 26 明治グループの価値創造プロセス
- 28 持続的な価値創造の原動力
- 30 財務・非財務ハイライト (主要指標の推移)

2023 中期経営計画の進捗

- 32 食品セグメントの事業戦略
- 36 医薬品セグメントの事業戦略

持続的な価値創造を支える取り組み

- 40 サステナビリティ戦略
- 44 自然との共生
- 46 新たなアプローチで「酪農」を持続可能に
- 48 生産地とともに「カカオ生産」を持続可能に
- 50 自然と共生しながら成長する強固な「事業基盤」を
- 52 人財戦略
- 54 人財マネジメント
- 58 人権
- 60 イノベーションの創出
- 61 食品セグメント
- 64 医薬品セグメント

ガバナンス

- 66 社外役員対談
- 71 コーポレート・ガバナンス
- 82 リスクマネジメント
- 86 役員一覧

財務・非財務パフォーマンス

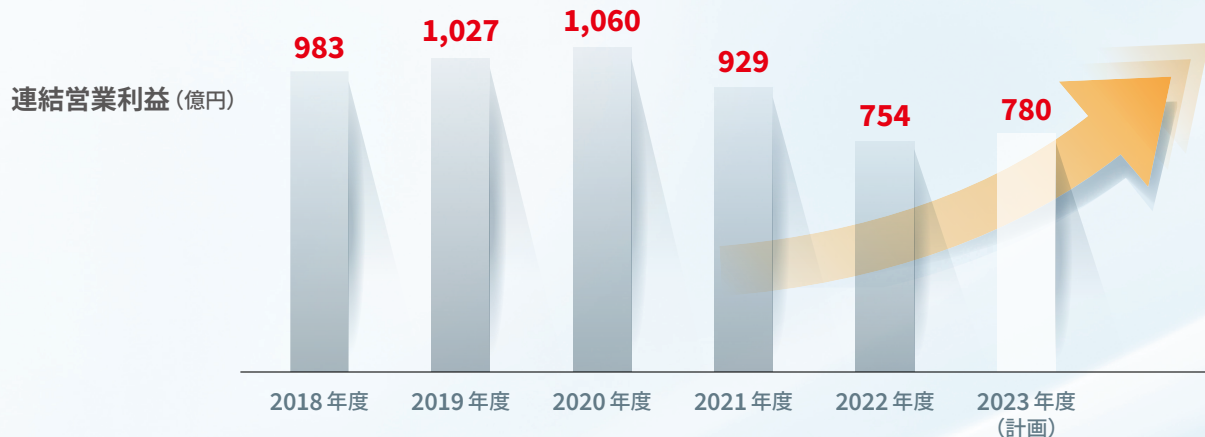
- 88 財務・非財務ハイライト (11年間サマリー)
- 90 非財務パフォーマンス (マテリアリティへの取り組みの進捗)
- 93 エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量、および廃棄物排出量の第三者保証

会社情報

- 94 事業の拠点
- 96 会社情報・株式情報
- 97 表紙作品について / 編集後記

2026ビジョン実現へのプロセス

明治グループが持つ強みを最大化し、さらなる成長を果たしていくための指針として、2018年度より「明治グループ2026ビジョン」を掲げています。これは2026年に向けて目指すべき企業グループ像を示したものであり、経営環境の変化に対応しながら中長期的な企業価値の向上を目指します。



ビジョン実現へのロードマップ

「明治グループ2026ビジョン」の実現へ向け、計3回の中期経営計画を策定しています。2018年度から第1ステージがスタートし、2020年度をもって終了。現在は、第2ステージとなる「2023中期経営計画」を実行中です。

2018

第1ステージ

「継続的戦略課題への取り組み」と
「成長に向けた新たな挑戦」

2020

第2ステージ

明治 ROESG® 経営の実践
利益成長とサステナビリティ活動の同時実現

第2ステージ 2023 中期経営計画

詳細は P.20 をご覧ください ▶

コンセプト

明治 ROESG® 経営の実践

利益成長とサステナビリティ活動の同時実現

重点課題

1. 事業戦略

食品セグメント

- 1) コア事業の成長力の回復
- 2) 海外展開の強化

医薬品セグメント

- 1) Meiji Seika ファルマ (株)・KMバイオリジクス (株) の一体運営推進 (ワクチン事業の強化)
- 2) CMO/CDMOの強化

全体

新領域への挑戦

2. ROIC 活用による経営管理体制強化

3. 成長投資の継続と強固な財務基盤構築の両立

4. サステナビリティ 2026 ビジョンの着実な実行

※「ROESG」は一橋大学教授・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です

明治グループ 2026 ビジョン

目指す企業グループ像

明治グループ100年で培った強みに、新たな技術や知見を取り入れて、「食と健康」で一步先を行く価値を創造し、日本、世界で成長し続ける

重点方針

1. コア事業での圧倒的優位性の獲得
2. 海外市場での成長基盤の確立
3. 健康価値領域での新たな挑戦
4. 社会課題への貢献

営業利益成長率

1 桁台
半ば以上 (年平均)

海外売上高比率

20 % を目指す

ROE

10 % 以上を維持

明治グループ 2026 ビジョンの構成

方針1. コア事業での圧倒的優位性の獲得

方針2. 海外市場での成長基盤の確立

方針3. 健康価値領域での新たな挑戦

推進にあたって

- ・外部リソースの活用
- ・革新的な生産性向上

事業ビジョン

方針4. 社会課題への貢献

- ことごとからだの健康に貢献
- 環境との調和
- 豊かな社会づくり

サステナビリティ
ビジョン

経営基盤
ビジョン

- 日本・世界で成長し続けるための機能的・戦略的なマネジメント体制の整備
- 一人一人の力が発揮できる環境・仕組み・風土づくり
- meiji ブランドの進化

2023

第3ステージ

明治 ROESG® 経営の進化

(2024年5月発表予定)

2026

注目すべき経営環境

Opportunity (機会)

- 予防・健康意識の高まり
- 海外の新興国の成長、中間所得層の拡大
- 高齢化による社会構造の変化
- Eコマースの拡大
- 環境意識の高まり、エシカル消費の拡大

Threat (脅威)

- 人口減少による国内市場の縮小
- 物価上昇を受けた節約志向の高まり
- 気候変動のサプライチェーンへの影響
- 世界人口の増加に伴う食糧不足
- デジタル化の進展

2026 中期経営計画のポイント

1. 市場創造力の強化

- サステナビリティと事業の融合＝“トレード・オン”の追求
- 成長期待市場への積極投資

2. 安定したキャッシュ創出力の維持・強化

- ROIC を活用した事業ポートフォリオの見直し、資本効率の向上
- SKU削減、生産体制見直しなどの構造改革
- デジタル技術の活用など新たな施策による既存事業の強化

3. 上記を実現する経営基盤の強化

At a Glance

私たちは、食品事業を行う「株式会社 明治」、医薬品事業を行う「Meiji Seika ファルマ株式会社」および「KM バイオロジクス株式会社」から成る企業グループです。人々の毎日の生活に欠かすことのできない乳製品・菓子・栄養食品・医薬品など幅広い分野の製品を通して、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、「健康・安心」への期待に応えていくことを使命に事業を営んでいます。

グループ体制図

(2023年3月31日現在)



2009年、明治製菓株式会社と明治乳業株式会社の経営統合によって設立された純粋持株会社。2011年にグループ事業再編、2018年7月からKMバイオロジクス株式会社が加わり、現在に至っています。

乳幼児から高齢者まで幅広い世代のお客さまに、粉ミルク、牛乳・乳製品、菓子、スポーツ栄養食品、流動食など多岐にわたる商品をお届けしています。

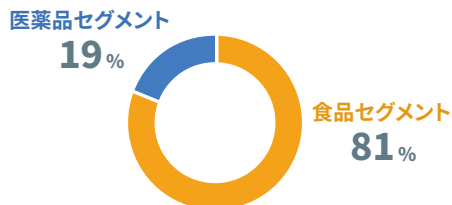
感染症・中枢神経系疾患治療薬、ジェネリック医薬品、ワクチンなどの医療用医薬品事業をグローバルに展開するとともに、動物薬事業も推進しています。

2022年度 (2023年3月期) の業績

売上高

1兆621億円

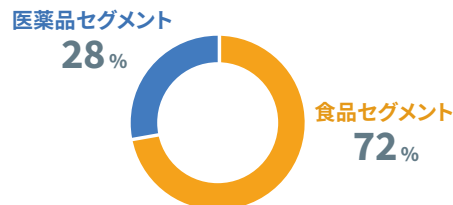
前年度比 4.8% UP



営業利益

754億円

前年度比 18.8% DOWN



ROE

10.0%

前年度比 3.5pt DOWN

1株当たり当期純利益※

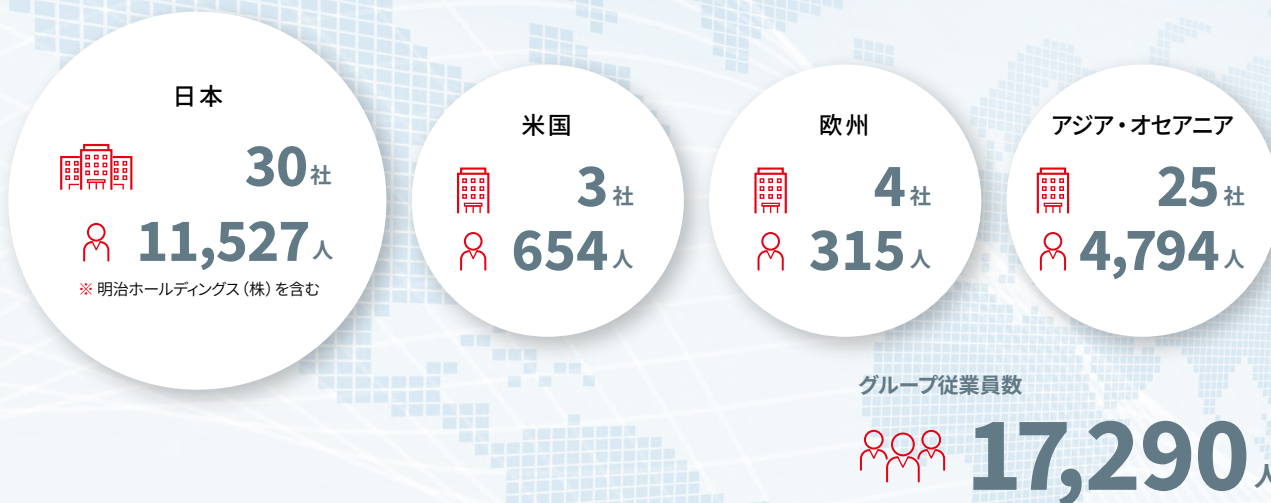
247.39円

前年度比 18.5% DOWN

※ 前年度の値の算出に、以下の株式分割を反映しています
2023年4月1日付 普通株式1株につき2株

グループ会社と従業員数 (2023年3月31日現在)

グループ会社数は連結対象および持分法適用会社数
従業員数は連結対象会社に在籍する人数



海外売上高比率 (2022年度)



ESGの外部評価

明治グループは、事業を通じた社会課題解決に積極的に取り組むことが、持続的な成長につながると考えています。「2023中期経営計画」では最上位の経営目標に「明治ROESG」を掲げ、利益成長とサステナビリティ活動の同時実現を目指しています。その取り組みは外部から高く評価され、国内外のESGインデックスの組入銘柄として採用されています。

- P.20 2023中期経営計画の概要と明治ROESG ▶
- P.40 サステナビリティ戦略 ▶

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**



THE INCLUSION OF Meiji Holdings Co., Ltd. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Meiji Holdings Co., Ltd. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

100年にわたる「meijiらしい健康価値」創造の歴史

明治グループは、創業から100年にわたって受け継いできた「栄養报国」（栄養を通じて社会に貢献する）の精神に基づき、幅広い年代のお客さまに向けた製品カテゴリーで「meijiらしい健康価値」を創造し、大きな市場シェアを獲得してきました。今後は、国内のみならず、世界中の人々に製品を届け、成長を持続させていきます。

時代ごとの「栄養」に対する課題や関心の高まりに応えるために

乳幼児ミルク

1923年、日本で初めてオリザニン（ビタミンB1）を添加した乳児用ミルクを発売し、以降、連続と製品の開発・改良を重ねてきました。2007年には世界初のキューブタイプ、2019年には液体タイプを発売。また、アジアや欧州（ダノン社と提携）での展開も進めています。



1923
育児用粉乳
「パトローゲン」



2007
「明治ほほえみ
らくらくキューブ」



2019
「明治ほほえみ
らくらくミルク」

GLOBAL /



アジア、
欧州での展開

国内市場シェア（2022年度）

乳幼児ミルク
No.1 41.5%

出典：2022年度インテージ社 SRI+

牛乳

1928年「明治牛乳」の発売以来、一世紀近く栄養面から人々の健康を支えてきました。2002年には独自のナチュラルテイスト製法で新鮮なおいしさを実現した「明治おいしい牛乳」へ進化。2013年からは中国でチルド牛乳を発売し、高品質な牛乳をグローバルに展開しています。



1928
「明治牛乳」



2002
「明治おいしい牛乳」

GLOBAL /



中国など
アジアでの展開

牛乳
No.1 17.8%

出典：2022年度インテージ社 SRI+

プロテイン

1980年、アスリート向けにスポーツ栄養学に基づいて開発された「ザバス」シリーズ。その後、一般の運動愛好者や女性にも裾野を広げ、大豆プロテイン商品や飲料タイプなどを多彩に展開。中国でも2020年より粉末タイプなどを発売しています。



1980 「ザバス」シリーズ



2022
「ザバス プロテインバー」



「ザバス MILK PROTEIN
ヨーグルト 脂肪0」



2015
「ザバスマルク
グレープフルーツ風味」



2023
「ザバス アドバンス
ホエイプロテイン100」

GLOBAL /



中国などアジアでの展開

粉末・顆粒プロテイン
No.1 31.9%

出典：2022年当社調べ

流動食

1986年に流動食事業へ本格参入し、1995年に「メイバランス」を発売。以降、患者さまや医療・介護従事者の方々を支えています。2022年には「総合栄養食品」の表示許可を取得。同年には「明治メイバランスMICHITASカップ」を発売。また、2016年から台湾でも事業展開しています。



1995
「メイバランス」



2022
総合栄養食品
表示許可取得



2022
「明治メイバランス
MICHITASカップ」

流動食（市販）
No.1 85.0%

出典：2022年度インテージ社 SRI+

これまでにない、新しい「健康」をお届けするために

ヨーグルト

1950年に本格的なヨーグルトの製造を開始し、日本にプレーンヨーグルト市場を開きました。2000年には乳酸菌の力で健康課題解決に貢献するプロバイオティクスヨーグルトを世の中に送り出し、さらに新たな市場を創造しました。2021年からは中国でもプロバイオティクスヨーグルトを発売しています。



1973
「明治ブルガリア
ヨーグルト」



2014
“まろやか
丹念発酵”

1996
特定保健用食品
表示許可取得



2023
“くちどけ
芳醇発酵”

プロバイオティクスヨーグルト



2000
「明治プロビオ
ヨーグルトLG21」



2009
「明治プロビオ
ヨーグルトR-1」



2022
「明治脂肪対策
ヨーグルト」

GLOBAL /

中国などアジアでの展開



チョコレート

No.1 25.2%

出典：2022年度インテージ社SRI+

1926年の「明治ミルクチョコレート」の発売にはじまり、人々を笑顔にする個性的な商品を展開する一方、1998年にはカカオの持つ健康価値に着目した商品を開発し、栄養面からもチョコレートの価値を引き出しています。



1926
「ミルクチョコレート」



2014
「明治 ザ・チョコレート」



1975 「きのこの山」
1979 「たけのこの里」



2023
「チョコレート効果プラス」
(機能性表示食品)



1998
「チョコレート効果」



2023
「カカフル」
「カカウェル」

GLOBAL /



欧米、アジア、
中東での展開

感染症の脅威から人々を守り続けるために

抗生物質

1946年にペニシリンの製造を開始して以降、現在20以上の国と地域で展開中の「メイアクト」をはじめ、多様な抗生物質を安定供給しています。



1946
抗生物質「ペニシリン」
製造開始



2006
β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質
「スルバシリン静注用」



1994
抗生物質「メイアクト」



2015
β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質
「タゾピベ配合静注用 明治」

国内市場シェア (2022年度)

全身性抗菌剤

No.1 21.5%

Copyright © 2023 IQVIA.
出典：IQVIA 医薬品市場統計
JPM2023年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による
※ 無断転載禁止

ワクチン

約半世紀にわたり、ワクチンの開発・供給を通じて、日本の公衆衛生の向上に寄与してきました。現在は、国内で長年の使用実績がある不活化ワクチンに加え、mRNA技術を獲得し、新型コロナウイルスワクチンの早期上市を目指しています。



1972
「インフルエンザ
HAワクチン」



1988
B型肝炎ワクチン
「ビームゲン」



2011
日本脳炎ワクチン
「エンセバック」

2012
四種混合ワクチン
「クアトロバック」

インフルエンザワクチン

No.1 29.0%

Copyright © 2023 IQVIA.
出典：IQVIA 医薬品市場統計
JPM2023年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による
※ 無断転載禁止

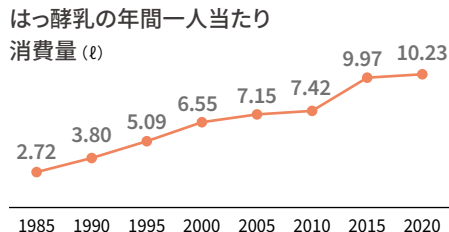
100年にわたる「meijiらしい健康価値」創造の歴史

次の時代の価値創造

ヨーグルト

常に独自性を追求し、ヨーグルト市場をさらに拡大

「おいしさ」と「健康」が両立する食品の代表格であるヨーグルト。日本における一人当たりのヨーグルト消費量は年々上昇し、いまや食卓になくはない存在となっています。そのけん引役が「明治ブルガリアヨーグルト」です。乳酸菌の選定だけでなく、その健康効果の研究、発酵・製造技術の革新、さらには感性工学からの新たな価値の提示など、絶えず独自性を追求して競争優位につなげ、今後もヨーグルト市場を力強くけん引していきます。



出典：一般社団法人Jミルク

強み：乳酸菌の健康効果の研究

新たな機能を科学的に証明し商品の健康価値を高める

meijiが保有する乳酸菌は6,500株以上に上り、人の健康に与える影響を長年研究しています。新たな価値を持つ乳酸菌の探求に加え、従来使用している乳酸菌の新たな価値を見いだすことにも取り組んでいます。例えば「LB81乳酸菌」は、有害菌や有害物質が体内に進入するのを防御する腸管バリアの機能を強化する可能性が見いだされています。

強み：発酵・製造技術の追求

乳酸菌の力を維持したまま、味や食感を進化させる

ヨーグルトをよりおいしく進化させるための技術開発にも力を入れています。「明治ブルガリアヨーグルト」を2023年3月、約10年ぶりにリニューアル。発酵時間短縮と良好なカード組織を両立する従来技術「まろやか丹念発酵（脱酸素低温発酵法）」に、今回新たに超高温殺菌と脂肪微細化を組み合わせ、くちどけの良さと、爽やかさの中にミルク感が広がる芳醇な味わいを実現する新製法「くちどけ芳醇発酵」を開発しました。



特定保健用食品の「明治ブルガリアヨーグルトLB81プレーン」

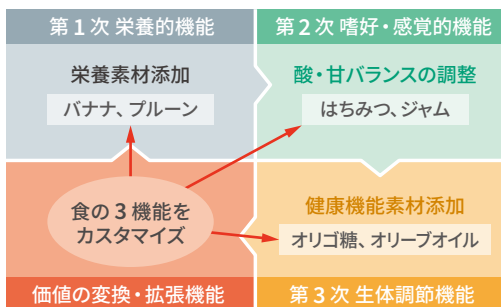
P.63 イノベーションの創出 > 商品ライフサイクル長期化の実現 ▶

強み：新たな観点からの価値向上

プレーンヨーグルトが持つ「価値の変換・拡張」の機能に注目

お客さまが別の食材を加えて召し上がっているという事実に着目することで、プレーンヨーグルトは食の3つの機能である「栄養」「嗜好」「生体調節」に加えて、「価値の変換・拡張」という機能を持つことに気が付きました。これは、お客さまご自身で栄養素材や健康機能素材を添加したり、酸味や甘みを調整したりして、3機能を自由にカスタマイズするユニークな機能です。（下図）

この価値の変換・拡張機能を活用し、新たな価値創造につなげる研究に注力しています。例えば、「明治ブルガリアヨーグルト」をベースにお客さまが望む気分をデザインしたり、親子のコミュニケーションツールにさせていただくなど、商品と心地よい体験をセットでお届けすることで、「こころの健康」に貢献することが可能です。「明治ブルガリアヨーグルト」はパッケージに冠した「ヨーグルトの正統」の言葉どおり、本場ブルガリアで育まれたおいしさや自然の力をそのままお届けし、日本のお客さまの健康をいつもそばで見守ってきました。これだけ長い間愛されている理由には、乳酸菌の健康効果や発酵・



製造技術だけではない「何か」があるはず。その一つの可能性は酸味や爽やかさに代表される風味の特徴にあると考え、その特徴が心身に与える影響を解明する研究などを進めています。世の中がまだ意識していない魅力を発掘し、常に選ばれる商品として、持続的な競争優位を獲得したいと考えています。



外山 義雄
Yoshio Toyama

株式会社 明治
研究本部 技術研究所
物性・感性研究部 部長

ワクチンの選択肢を増やし、国内生産で安定供給を

2020年初頭より爆発的に流行し、社会に混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症。日本では2023年5月より感染症法[※]上で「5類感染症」に位置付けられましたが、これは感染症の収束を意味するのではなく、「共存」する世界に移行するということです。今後は、インフルエンザワクチンのように新型コロナワクチンも定期的な接種が想定されます。そこで求められるのは、有効なワクチンの選択肢を増やし、国内生産で安定供給することです。meijiは感染症領域のリーディングカンパニーとしてその責務を担い、行政やアカデミア、パートナー企業と連携してワクチンの開発・供給を推進し、社会に貢献していきます。

※ 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律

明治グループのワクチン生産拠点



TOPICS：レプリコンワクチン「ARCT-154」

少ない接種量で効果が持続する、画期的なワクチンの実用化へ

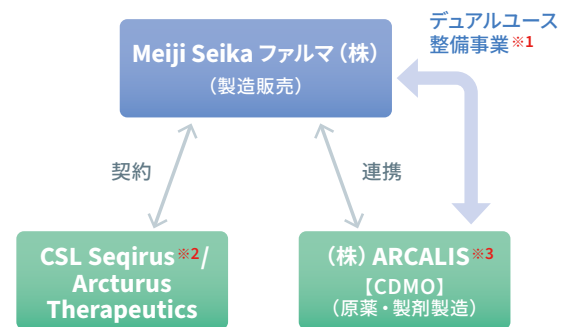
次世代のmRNA技術を使用したレプリコンワクチン「ARCT-154」の国内開発・生産を進めています。「ARCT-154」は米国のバイオ企業であるArcturus Therapeutics, Inc.が開発したワクチンであり、少ない接種量で6カ月以上という長期間にわたって効果が持続することが期待されています。明治グループは右図のような協業体制のもと、同ワクチンの日本国内での製造販売承認取得、流通、販売を担当します。すでに2023年4月に成人における初回免疫、また、6月には追加免疫によるCOVID-19の予防を適応症として、製造販売承認を申請しました。承認されれば、欧米に先駆けて実用化される初めてのレプリコンワクチンとなります。同ワクチンの生産は、(株) ARCALISと連携し、同社が建設中の製造施設（福島県南相馬市）で原薬から製剤まで一貫して製造できる体制を構築しています。

※1 ワクチン生産強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業

※2 CSL Limitedの子会社で、世界最大級のインフルエンザワクチンの供給企業。米国、英国、オーストラリアに最先端の製造施設を持ち、優れた研究開発能力を有する

※3 世界水準の医薬品創出ヘルスケアプラットフォーム企業群を傘下に有するアクセリード株式会社とArcturus Therapeutics, Inc.の合併企業。mRNA医薬品・ワクチンの創業支援、受託開発製造事業（CDMO事業）を展開

ARCT-154の協業体制



TOPICS：不活化ワクチン「KD-414」

小児にも安心して使用できる「不活化ワクチン」を開発中

「KD-414」は、インフルエンザワクチンや小児定期接種ワクチンとして長年使われてきた実績のある「不活化ワクチン」です。直近では、2023年1月に国内小児第3相臨床試験（6カ月以上12歳未満）を開始しました。また、12歳以下の小児を対象にした変異株対応ワクチンの臨床試験を2023年度中に開始すべく、準備を進めています。さらに同ワクチンの生産体制の構築も順調に進んでいます。厚生労働省および国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から助成を受け、原液製造や精製、品質試験などに必要な施設や設備を整備しています。



KMバイオロジクス (株) FC 棟
原液製造施設